

1 日程

- 2018 年 2 月 21 日 (水) 深夜羽田空港より出発
- 22 日 (木) 午前バンコク着
午後タマサート大学タープラチャンキャンパスにて
日本語専攻大学院生に対して講義 (2 時間半)
タープラチャンキャンパス見学
元博報招聘研究者パッチャラポーン先生、大学院リカレント修了生スパンサーさん (泰日工業大学) らと夕食
- 23 日 (金) タサニー先生ご案内でカセサート大学訪問
日本語教育事情調査 (ユバカー先生)
タサニー先生とタマサート大学ランシットキャンパスに移動
日本語科教員と懇談、ビデオによる紹介
東アジア研究所 (元日本研究所) 見学
日本語教育事情調査の最新データをいただく
タサニー先生、日本語科教員と夕食
- 24 日 (土) タマサート大学 日本語科学部 2 年生と懇談
- 25 日 (日) 帰国

2 所感、印象

・タマサート大学

市内、王宮そばでチャオプラヤ川沿いという抜群の立地のタープラチャンキャンパスはタマサート大学発祥の地だが、現在は大学院教育のみで使用されている。町中ではあるが緑が多く、開放的な作りで快適なキャンパスである。創始者の像やことばの記されたモニュメントがあり、大学の理念を伝えている。日本語科の大学院生は 10 名ほどおり、日本語学、日本語教育、日本学などを専門とする学生がいる。修士課程のみである。毎年修了生を出している。

メインキャンパスであるランシットキャンパスはバンコクから北に 70 キロほどの郊外に広大な敷地を持ち、学生寮などを含め、その中で生活できるようになっている。日本人教師の宿舎もその中にあるという。キャンパスの中ではバスが走り、自転車移動が推奨されている。日本語科は教養学部 (リベラルアーツ) 東アジア学科の中にある。最近日本語学科から再編されたという。日本語学科は 1 学年定員 40 名ほどで、教員はタイ人 8 名、日本人 7 名の構成である。日本人教員は 2, 3 名の長期の他は、2, 3 年で交替することが多く、大学院在学中の学生 (休学して) もいる。タイ人、日本人ともに欠員となっており、なかなか埋まらないという。タイ人教師は日本で博士号を取得してきた若手の教員も多く、期待が持てる。ただし、日本語学科が東アジア学科に再編され、人文系は予算削減傾向にあるなど、厳しい状況であるという。学部学生は日本語既修者も多く、優秀である。日本に対する関心が高い学生が入学しており、留学に対する意欲も強い。たくさんある協定校への交換留学などかなりの学生が 1 年間の留学を行っている。案内してもらった 2 年生の学生も高校で日本語教育を経験したり、ゲームなどで日本人と接触する中で自力で習得したなどで、かなり高い日本語レベルを持っていた。高校など中等教育での日本語教育も盛んだということである。



タマサート大学



タマサート大学東アジア研究所

・カセサート大学

「カセサート」は「農学」の意味で（「タマサート」は「法学」）理系を中心とした大学である。バンコク市内を出てすぐの郊外にある緑豊かなキャンパスである。本学の交流協定校で、学生交流を行っている。日本語科は人文学部東洋言語学科に属しており、日本語専攻とビジネス日本語専攻の二つの専攻を持っている。それぞれ1学年25人程度である。二つのカリキュラムを維持するのが難しいということで、今後一本化される予定だそうだ。日本人、タイ人ともに教員の確保が難しいことも原因の一つである。大学院も2014年に始まったが、まだ修了生が出ていない。タイ人教師は外大出身者が3名おり、学生交流、教員交流を行っている。



カセサート大学ユバカー先生